

平成 25 年度 入試センター 自己点検評価報告書

1. 入試センターの概要
2. 学生募集広報
3. 入学試験
4. 大学入試センター試験

平成 26 年 5 月 19 日版
富山国際大学 入試センター

1. 入試センターの概要

入試センターは、センター長1名、センター次長1名、参事2名、課長1名、主事2名、各学部の教員による入試対策委員で構成し、以下の事業を展開している。

(1) 学生募集広報に関すること

本学の教育理念・教育目標を踏まえた各学部のアドミッションポリシー（入学者受入方針）を掲げ、学生募集活動を展開するとともに志願者確保、入学定員確保に取り組んでいる。

年間を通してWeb媒体、受験媒体、大学案内など各種学生募集広告業務、県内県外高校訪問による学生募集業務、業者主催進学相談会業務、オープンキャンパス業務、高校教員対象入試説明会業務、学校見学業務などを行っている。

(2) 入学試験に関すること

本学が実施する入学試験の運営に関する業務を行い、出願書類受付業務、入学試験実施業務、合否関係業務を行っている。

平成26年度入学試験では、推薦入試（指定校制、公募制）、AO入試（Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期）、一般入試（前期、後期）、特別奨学生選抜入試（前期、後期）、大学入試センター試験利用型入試（前期、中期、後期）、特別入試（社会人、外国人留学生、帰国子女）、海外協定校留学生入試、3年次編入学（3年次編入学、海外協定校3年次編入学）を実施した。

(3) 大学入試センター試験に関すること

大学入試センター試験は、独立行政法人大学入試センターが毎年1月に実施する全国一斉に行う試験であり、大学入試センター試験を利用する大学が共同で実施している。本学も試験会場となっており、富山短期大学と共同で実施し、平成26年度大学入試センター試験より呉羽キャンパスで実施した。年間を通して準備を行い、試験の運営に関する業務を行っている。

2. 学生募集広報

1. 実績と現状

(1) 高校訪問

富山県内の高校・予備校を対象に年間8回にわたり、学生募集広報活動を行った。

4月からの前半は、教員対象入試説明会参加依頼や推薦入試出願依頼、オープンキャンパス参加依頼などをしながら県内高校の動向を調査・分析し、11月の推薦入試の募集活動に取り組んだ。

12月からの後半は、訪問校を絞り込み、一般入試や特別奨学生選抜入試、大学入試センター試験利用型入試の出願依頼をしながら動向を調査し、募集活動に取り組んだ。

教員による県内高校訪問も年2回実施した。

県外の高校訪問は新潟県、石川県、福井県、岐阜県を対象として年3回実施した。

(2) 学生募集イベント

年間を通して7回の学生募集イベントを実施した。内訳は、主に推薦入試志願者をターゲットとした「6月の進学説明会(6月)」、「オープンキャンパスⅠ・Ⅱ・Ⅲ(7・8・10月)」、「推薦入試直前説明会(10月)」、一般入試・特別奨学生選抜入試・大学入試センター試験利用型入試の出願者をターゲットとした「一般入試直前説明会(12月)」、新3年生をターゲットとした「3月進学説明会(3月)」である。イベント毎にターゲットを絞って資料請求者等にDMを送り、参加者の動員を図った。

(3) 業者主催ガイダンス

平成25年度は、富山県内で開催されるガイダンス及び説明会を中心に参加した。

(4) 広告媒体

短期・中期計画として、受験生・保護者向けの受験媒体に参画した。

その他、短期としては新聞広告、テレビCM、ラジオCMを実施した。

中・長期計画として、地域・社会向け広告を実施している。

(5) 大学案内及び広報紙

資料請求者や進学説明会等で配布する大学案内を5月に発行し、様々な機会をとおして配布をおこなった。また、高校訪問時に進路指導部情報提供用として広報紙「TUINS」を年3回発行し、県内県外高校訪問時に大学の学生募集ツールとして活用した。その他に、資料請求者や進学説明会等で配布する「なるほど情報」を作成した。

2. 課題

18歳人口の減少が始まる2018年問題に対応していくことが必要である。

3. 入学試験

1. 実績と現状

(1) 入試結果

平成26年度入学試験は、大学全体では200名定員に対して入学者数211名(入学定員充足率105.5%)と4年ぶりに入学定員を確保したが、歩留率は55.4%と過去6年間では最も低い歩留まりであった。現代社会学部は入学定員120名に対して入学者数110名(入学定員充足率91.7%)と4年連続の定員割れとなった。子ども育成学部は入学定員80名に対して入学者数101名(入学定員充足率126.3%)と2年連続の定員確保となった。

学部	種別	平成26年度入学試験										
		定員	志願者	受験者	合格者	入学 手続き者	入学準備 辞退者	入学者	歩留率	入学定員 充足率		
現代社会	推薦	指定校制	20	20	20	20	20		20	100.0%		
		公募制	一般型(専願)	5	10	10	9	9		9	100.0%	
			一般型(併願)	10	11	11	11	10	5	5	45.5%	
			随活動型(併願)	20	20	20	20	20		20	100.0%	
		【小計】	55	61	61	60	59	5	54	90.0%		
	A O	AO入試(I期)	5	2	2	2	2		2	100.0%		
		AO入試(II期)	若干名	7	7	5	5		5	100.0%		
		AO入試(III期)	若干名	0	0	0	0		0	—		
		【小計】	5	9	9	7	7	0	7	100.0%		
	一般・特別奨学・センター	一般入試(前期)	22	35	34	31	17		17	54.8%		
		特別奨学生選抜入試(前期)から一般入試(前期)合格					2	1	1	50.0%		
		第二志望一般入試(前期)合格				11	1		1	9.1%		
		一般入試(後期)	5	5	5	4	2		2	50.0%		
		特別奨学生選抜入試(後期)から一般入試(後期)合格					0	0	0	—		
		特別奨学生選抜入試(前期)	若干名	3	3	1	0		0	0.0%		
		特別奨学生選抜入試(後期)	若干名	0	0	0	0		0	—		
		センター試験利用型(前期)	25	57	57	53	15	2	13	24.5%		
		センター試験利用型(中期)	5	4	4	3	1		1	33.3%		
		センター試験利用型(後期)	3	3	3	3	0		0	0.0%		
		【小計】	60	107	106	108	37	2	35	32.4%		
		特別	外国人留学生(I期)	若干名	1	1	1	1		1	100.0%	
			外国人留学生(II期)	若干名	6	6	5	4	2	2	40.0%	
	社会人(I期)		若干名	0	0	0	0		0	—		
	社会人(II期)		若干名	0	0	0	0		0	—		
	帰国子女(I期)		若干名	0	0	0	0		0	—		
	帰国子女(II期)		若干名	0	0	0	0		0	—		
	海外協定校外国人留学生(天津)		若干名	11	11	11	11	1	10	90.9%		
	海外協定校外国人留学生(大連)		若干名	0	0	0	0		0	—		
	海外協定校外国人留学生(青島)		若干名	1	1	1	1		1	100.0%		
	日本語学校協定校(I期)		若干名	0	0	0	0		0	—		
日本語学校協定校(II期)	若干名		0	0	0	0		0	—			
【学部合計】	120	196	195	193	120	10	110	57.0%	91.7%			
子ども育成	推薦	指定校制	10	10	10	10	10		10	100.0%		
		公募制(専願)	10	17	17	13	13		13	100.0%		
		公募制(併願)	4	6	6	6	6	1	5	83.3%		
		【小計】	24	33	33	29	29	1	28	96.6%		
	一般・特別奨学・センター	一般入試(前期)	25	73	72	47	33		33	70.2%		
		一般入試(中期)								—		
		特別奨学生選抜入試(前期)から一般入試(前期)合格					18	16	2	14	77.8%	
		一般入試(後期)	5	7	6	1	1		1	100.0%		
		特別奨学生選抜入試(後期)から一般入試(後期)合格					3	0	0	0.0%		
		特別奨学生選抜入試(前期)	若干名	27	27	7	5	3	2	28.6%		
		特別奨学生選抜入試(後期)	若干名	4	4	1	1		1	100.0%		
		センター試験利用型(前期)	20	88	88	73	20	4	16	21.9%		
		センター試験利用型(中期)	4	13	13	6	4		4	66.7%		
		センター試験利用型(後期)	2	2	2	2	1		1	50.0%		
	【小計】	56	214	212	158	81	9	72	45.6%			
	特別	社会人(I期)	若干名	0	0	0	0		0	—		
		社会人(II期)	若干名	1	1	1	1		1	100.0%		
		【小計】	若干名	1	1	1	1	0	1	100.0%		
	【学部合計】	80	248	246	188	111	10	101	53.7%	126.3%		
	【総計】		200	444	441	381	231	20	211	55.4%	105.5%	
【三年次 編入学試験】												
学部	種別	定員	志願者	受験者	合格者	入学 手続き者	辞退者	入学者 予定者	歩留率	入学定員 充足率		
現代社会	編入学	一般公募制		1	1	1	1		1	100.0%		
		一般公募制(富山短期大学)		1	1	1	1		1	100.0%		
		一般公募制(外国人留学生)	5	1	1	1	1	1	0	0.0%		
		協定校(2+2)		0	0	0	0		0	—		
	【学部合計】	5	3	3	3	3	1	2	66.7%	40.0%		
子ども育成	編入学	一般公募制	5	2	2	2	2		2	100.0%		
		一般公募制(富山短期大学)		2	2	2	2		2	100.0%		
	【学部合計】	5	4	4	4	4	0	4	100.0%	80.0%		

(2) 入試制度の変更

平成 26 年度入試は、試験種別において、現代社会学部では、新規に推薦入試公募制（専願）、AO 入試（Ⅱ・Ⅲ期）を実施、一般入試（専門・総合学科）を廃止、子ども育成学部では、推薦入試指定校制（専門・総合学科）を廃止した。

合否判定について、一般入試（前期）で第 2 志望を設定した。

試験会場について、東黒牧キャンパスで実施していた一般入試及び特別奨学生選抜入試を呉羽キャンパスで実施した。

(3) 入試対策拡大会議

入学試験合否判定案を審議する会議として、学長、学部長、学務部長、事務部長、入試対策委員、入試広報課員で構成され、計 7 回実施した。

(4) 入試の管理・運営

本学の入試は、①入試問題作成、②試験実施、③採点、④合否判定資料作成、⑤合否判定資料念査、⑥学部連絡調整会議、⑦入試対策拡大会議、⑧教授会、⑨運営会議の順で試験を管理・運営している。

2. 課題

(1) 2018 年問題への対応

全国でも 18 歳人口の流出県である富山県において、18 歳人口の減少が始まる 2018 年問題（富山県においては 2020 年より減少）を前に、地元富山県からの出願者を増加させる必要がある。

大学全体で見ると平成 23 年度以降、県内の志願者数が増加しているが、現代社会学部は隔年で増減を繰り返しており、子ども育成学部の増加が主な理由である。これは子ども育成学部 1 期生、2 期生の小学校教員採用実績、社会福祉士試験合格実績によるものである。出口実績により、県内の進学動向が変化したことが窺える。出口実績が受験生に与える影響は大きく、今後両学部共に評価される実績を積んでいく必要がある。

(2) 県内高校への対応

県内の動向としては、近年少なかった呉西地区の受験生が両学部ともに年々微増している。

現代社会学部は、呉東地区からの出願者数が多いが、距離が遠いから呉西地区は少ないと結論づけるのではなく、通学距離が遠くても、県内で一人暮らしをしようとも、なりたい自分を実現させるために学びたい学部が東黒牧キャンパスにあると言われる学部になる必要がある。

子ども育成学部は、呉東呉西地区の中間に位置する呉羽キャンパスにあり、出口実績を継続していくことで呉東地区の出願者数と同比率の出願者数を呉西地区から獲得できるようにしなければならない。

地元志向だから本学を受験し入学するのではなく、なりたい自分になれる学部があるから本学を受験し入学するという目的意識の高い学生の確保が今後の課題である。

(3) 入試の管理・運営について

入試の管理・運営について、効率的な入試業務スケジュールを行う一方で、ミスのない正確な入試業務を実行できるスケジュールを設定すること、採点や合否判定資料などの念査機能体制の確立と念査方法の見直しが必要である。

入試運営について、呉羽キャンパスで一般入試及び特別奨学生選抜入試を実施したが、推薦入試も含め富山短期大学、富山国際大学付属高等学校との調整が必要である。

4. 大学入試センター試験

1. 実績と現状

従来、東黒牧キャンパスで大学入試センター試験を実施してきたが、平成24年度第8回富山国際大学運営会議（H24.11.21）において、試験場を東黒牧キャンパスから呉羽キャンパスに変更することが決定された。

大学入試センター試験は、富山国際大学と富山短期大学が共同で実施しており、富山国際大学試験場として270名の受験生を受け入れている。

試験当日の公共交通機関について、JRについては西日本旅客鉄道富山地域鉄道部、路線バス及び臨時バスの運行については、富山地方鉄道自動車部運行管理課に協力を依頼した。

除雪について、富山県土木部道路課、富山県富山土木センター施設管理課、富山市役所建設部道路河川管理課に県道及び市道の除雪の協力を依頼するとともに、呉羽キャンパスの冬期除雪を委託している近藤建設株式会社にキャンパス内の除雪を依頼した。

試験場の警備については、富山西警察署（交通課、警備課）に協力を依頼した。

呉羽キャンパスのある願海寺・野々上地区の住民の方には、事前に自治会会長を通じて呉羽キャンパスで大学入試センター試験を実施する旨を伝え、試験当日の受験生送迎に係る車の渋滞に理解を求めた。

試験実施前には、試験監督者説明会（H25.12.16（月））、事務職員説明会（H26.1.15（水）-16（木））、リスニング演習（H26.1.6（月））を行った。

2. 課題

試験前日、試験当日に校内の除雪を行ったが、深夜と早朝の除雪であったため、今後、近隣住民から苦情が寄せられる可能性がある。

試験終了後の迎えにきた保護者の車により、キャンパス周辺が脇道も含め渋滞となったため、今後、近隣住民から苦情が寄せられる可能性がある。

平成27年度大学入試センター試験では、高等学校学習指導要領の移行年度であり、新教育課程履修者と旧教育課程履修者に対応した運営をしなければならず、試験室の増設、試験監督の増員等の措置を図らなければならない。今後も、富山県地区の試験場設定大学との連携が必要であるが、大学入試センターからの提案である試験場のグループ化（新旧教育課程を別けた試験場の設定）による対応が実施できれば、本学の受け入れ人数は微増するかもしれないが、新教育課程履修者のみの受入が可能となり、試験室の増設及び監督者等の増員は発生しないかもしれない。

試験監督者及び事務職員に事前説明会等を実施しているが、業務内容の周知徹底が必要である。

平成25年度は、呉羽キャンパスでの初めてのセンター試験であったが、今後、東黒牧キャンパスで実施した場合と呉羽キャンパスで実施した場合の比較分析が必要である。

センター試験業務は、年間を通して膨大な業務があるが、全体を把握している職員は少なく、今後若手職員の育成を進めていかなければならない。